

一帯一路構想の下での中欧間貨物鉄道－相互に連結されたユーラシアの姿

北京交通大学交通運輸学部教授

董春嬌

一帯一路構想、これは物理的な連結以上のものを包含する現代のシルクロードに相当するものであるが、この構想は世界最大の経済協力のプラットフォームを構築することを目的としており、協力の内容には、政策協力、貿易・金融分野での協力、社会的・文化的な協力を含む。2014年に中国は、インフラ整備と European Greater Zone (GEZ) の国々他沿線の国との越境連携を進めるために、一帯一路インフラ基金に対して 400 億ドルの資金を向けることを表明した。中国のハイテク産業がブームとなった地域である重慶、成都から始まった 2 本の正規ルートが、アジアと欧州をつなぐ 39 のルートからなる輸送ネットワークへと成長したように、中欧間鉄道貨物輸送は国際的なロジスティックサプライチェーンにおいて、有効なつながりとなる。同時に、中欧貨物輸送は、ニッチな市場であると認識されており、中国と欧州連合の国々の間で行き来する積み荷の 40%に該当する高付加価値製品のニッチであることを意味し、鉄道サービスの提供者が、海運や航空輸送から 12%程度と見込まれるシェアを惹きつける可能性を広げるものである。航空よりも安く、海運よりも速いこの新シルクロードは、ユーラシアを渡る貨物輸送業者にとっての強力なきっかけを築くものである。発言者は一帯一路構想の下での中欧貨物鉄道の発展について話しをする予定であり、その内容は、中欧貨物鉄道の主要な特徴、主要な回廊、運用方法、製品の構成などについてである。加えて、中欧貨物鉄道の運用方法がどのような影響をもたらすのかという点についての現状と、将来の姿を報告し、効率的、効果的な運用を行うための手段について紹介する。その例示として四川国際鉄道プログラムを、国際貨物輸送鉄道を実行した際の最終的な姿であることを報告する。

[ERINA にて翻訳]